

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

水稻海外飛来性害虫の飛来状況（技術情報第6号）について（送付）

このことについて、トビイロウンカの飛来状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

トビイロウンカは6月下旬以降断続的に飛来しており、7月第1半旬には坪枯れ被害が多発した令和元年を超える誘殺が確認された。

この時期の飛来は、特に早植え水稻や育苗箱施用をしていないほ場で増殖し、被害が発生する恐れがあるため、本田での発生状況を定期的に観察し、要防除水準を超えた場合は、臨機防除を検討する。

1 飛来状況

- （1）合志市に設置した予察灯では、6月22日の初飛来から断続的に誘殺されている（表1）。6月第5半旬～7月第1半旬の誘殺数は、124頭（平年32頭）と平年比多であった（表2）。

2 防除対策

- （1）今後も梅雨明けまでは飛来すると考えられるため、最も重要な飛来時期と防除適期は随時変動する。防除に当たっては、最新の情報を防除所のホームページで確認したうえで、ほ場での発生状況を注意深く観察し、適期防除に努める。
- （2）気象予報に基づく予測では、7月3日に飛来した成虫の次世代幼虫は7月20日以降から見え始める。本田内の発生密度を観察する際は、他のウンカ類（セジロウンカやヒメトビウンカ）も発生している時期であることから、各害虫種の見分け方を理解したうえで、払落し法（株元を叩き、水面もしくは株に沿わせた板上に落ちた虫を計数する）によって観察する。
- （3）トビイロウンカの発生時期毎の要防除水準（成虫と幼虫を合わせた頭数）は、本田初期では10頭/100株、7月中旬～8月上旬では20頭/100株である。本田内の発生密度を定期的に観察し、要防除水準を超えた場合は、臨機防除を検討する。特に、トビイロウンカの定着に適した生育ステージかつ箱施薬剤の効果が薄れる時期である早植え水稻や育苗箱施用をしていないほ場では注意する。
- （4）防除適期は若齢幼虫期である。薬剤感受性が低下している薬剤の使用を避ける（令和6年（2024年）3月22日付け技術情報第13号参照、<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/243280.pdf>）。
- （5）トビイロウンカは水稻の株元近くに生息しているため、液剤や粉剤で防除する場合は薬剤が株元に到達するように十分量を丁寧に散布する。

※今後の発生状況、防除適期や対策については、熊本県病害虫防除所のホームページ  
 ( <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html> ) に掲載します。

表1 予察灯におけるトビイロウンカの誘殺状況 (合志市)

月/日	~6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5
誘殺数(頭)	0	2	1	12	2	0	0	1	0	0	0	2	102	2	0

表2 予察灯におけるトビイロウンカの半旬別誘殺数 (合志市)

月	半旬	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	平年値 (過去10年)	R6
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	0
	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	1	17
	6	1	0	1	0	0	1	2	0	8	0	1	1
7	1	10	0	0	0	0	27	226	0	0	32	30	106
	2	0	0	0	4	0	2	402	2	7	1	42	
	3	14	0	34	7	0	49	119	0	2	3	23	
	4	2	0	4	0	0	12	2	0	73	0	9	
	5	1	1	3	0	0	4	7	0	2	1	2	
	6	0	1	0	0	0	1	2	17	0	5	0	3

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
 担当：守田 TEL 096-248-6490